

認知症フロアにおける ダイニングの安全な空間作り

～KYT（危険予知トレーニング）の導入と
危険箇所のマップ化の試み～

エレガーノ甲南 3 階

大久保友葉 小林佳恵



1.はじめに

認知症フロア

身体レベルや認知度は様々

フロアのまんなか
ダイニングがある

「まんなかダイニング」が
生活の中心スペースである

PEAP



ユマニ
テュード



ダイニングの現状...

- ・ スタッフの椅子が出しっぱなしになっている...
- ・ いつも使用する歩行器が本人がすぐに使えない所にある...

→ 入居者にとって安全な空間ではない

なぜ??

多忙な業務... 予期せぬ行動...

スタッフの危機予測に対する意識が不十分



安全に事故なく
自由に過ごしてもらいたい！

「KYT」 を取り組むのは有効的！？



仮説

「KYT」を知り、フロアで取り組むことで
スタッフの危険予測に関する意識が高まる。

また、危険箇所を可視化し共有することで

入居者は安全な空間で

過ごすことができるのではないか！？



「KYT」とは...

危険予知トレーニング

(Kiken Yochi Training)の略

事故や災害を未然に防ぐことを目的に職場や作業の状況の中に潜む**危険要因とそれが引き起こす現象**をイラストを見ながら、そこに潜む危険に気付き、また指摘し合うものが目的。
高齢者施設でも取り入れられている。



基本的なKYTの進め方

● 現状把握

どんな危険が潜んでいるかグループワークで話し合う

● 本質研究

チームとして危険なポイントをあぶりだしてみる

● 対策樹立

チームとしての行動を考える

● 目標設定

考え出された対策をチーム目標にして行動する



1.研究概要

9月上旬 KYT研修事前意識調査のアンケート実施

9月24日 KYT研修「生活を支える安全対策-KYTの視点
で-」(医療法人柏友会 松本 洋美講師)受講

10月上旬「KYT研修実施後意識調査アンケート」と
「危険箇所記入シート」の実施

11月22日 勉強会(ミニカンファレンス)
の実施

12月 危険予測マップを作成



2.研究期間と対象者

①.期間：2021年6月～2021年12月

②.対象：3階介護スタッフ(CW)14名，看護師(NS)3名

スタッフの年齢層

	20代	30代	40代	50代	60代
男性	0	3	1	0	0
女性	2	5	1	4	0

勤続年数

	0～5 年	6～10 年	11～15 年	15～20 年	20年以 上
CW	1	5	5	2	0
NS	0	1	1	0	1



3.倫理的配慮

- 3階介護スタッフ14名， 3階看護師3名， に書面で説明し，署名・捺印にて同意を得る。
- 研究への参加はあくまでも自由であり不参加によって不利益が生じないこと， 研究開始後も中断， 拒否することができることを説明する。
- 研究の論文やスライドに個人名は使用せず対象者が特定できるような表現は使用しない。



4. 結果

①KYT研修実施前アンケートについて

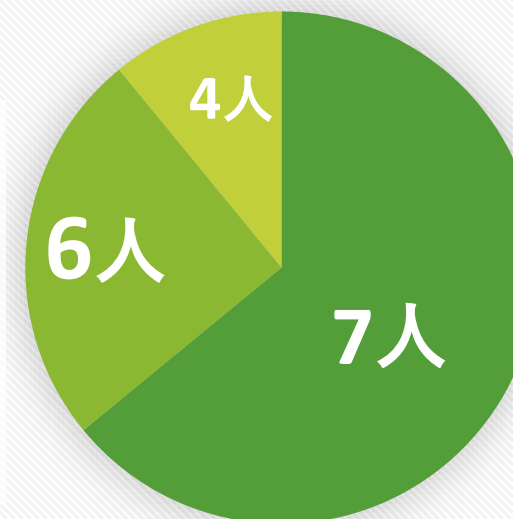
フロア内の危険性について意識していますか？

■ とても意識している ■ 意識している ■ どちらでもない



KYTを知っていますか？

■ 知っている ■ 知っているが詳しくは知らない ■ 知らない



②クロス集計

「フロア内の危険性について意識していますか」の設問と「KYTを知っていますか？」の設問を掛け合わせて集計しました。

結果：フロア内の危険性について意識している人の中にも「**KYT**」を知っていないが、**危険予測**に意識して働いている人もいました。

	とても意識している	意識している	どちらでもない
知っている	1	9	3
知らない	2	2	0



③KYT研修の紹介（KYT研修資料より一部抜粋）

生活を支える安全対策

-KYTの視点で-

医療法人柏友会
医療安全管理者・教育担当マネージャー
松本 洋美

2021.9.24

9月24日 医療法人柏友会 医療安全管理者・教育担当マネージャー 松本 洋美講師による施設内研修「生活を支える安全対策-KYTの視点で-」を実施。

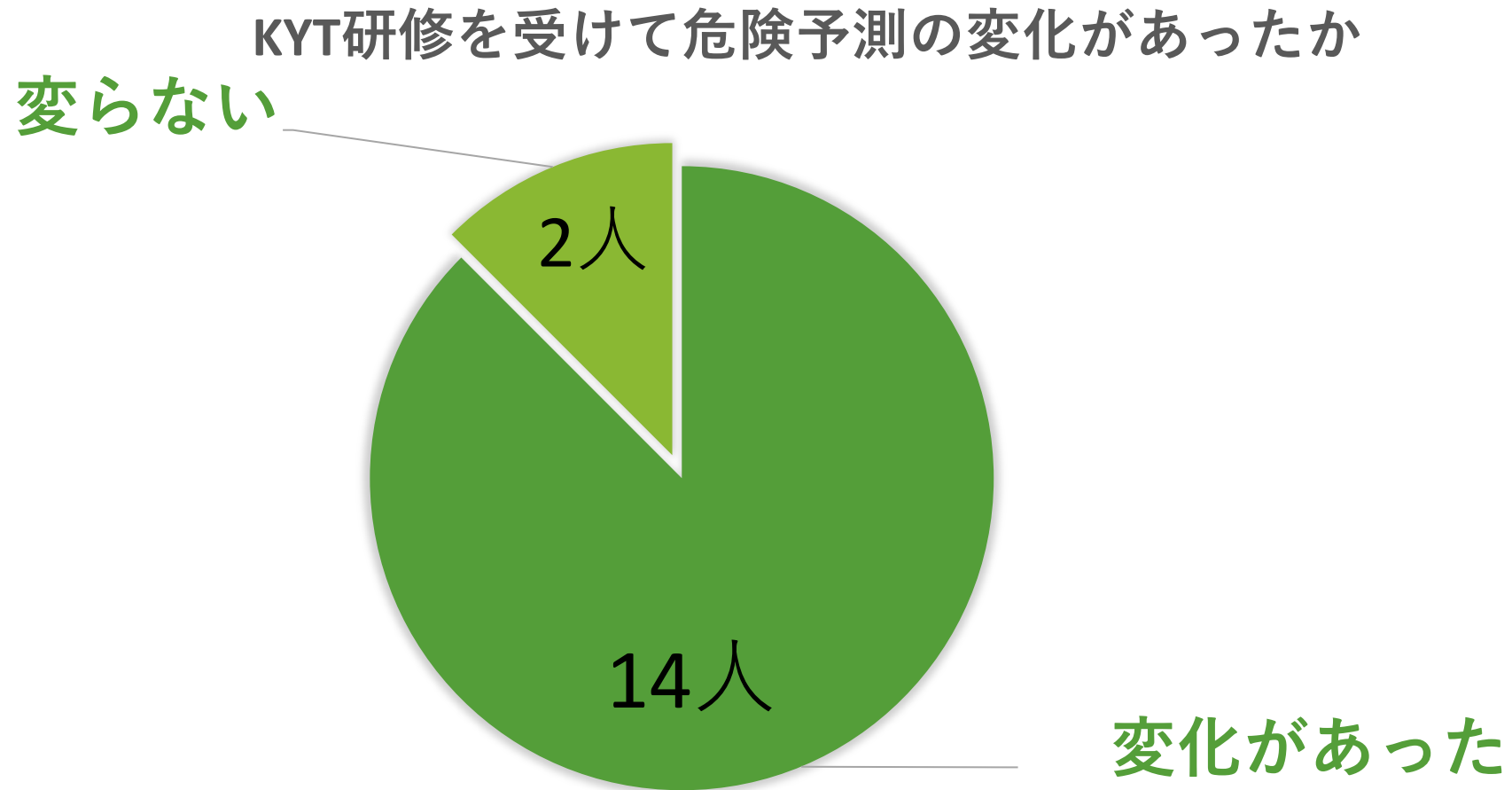
Q どこが危険か考えてみよう！



KYTを実施する目的

1. 様々な状態・状況の中に潜んでいる**危険要因を察知**しその防止対策をたてられるようにする
2. 危険予知能力を育てるには、様々な状態・状況に潜む**危険を予測する練習を反復する**のが効果的
3. GWにより一人では考えつかないようなアイデアが出ることもあり、**危険を予知する想像力を育てる**
4. 「～なので…が起きる」、「〇〇が～して…になる」と、危険なことが起きるケースを発見できる能力を鍛える

④KYT研修実施後意識調査アンケートについて



⑤危険予測への意識の変化があった理由

長年介護職をしているからこそ、起きてしまう事故がある事に気が付けた！

自身の思い込みや勝手な判断をしていないかというところまで気にかけていなかった事に気が付けた！

危険要因・現状・具体策まで分析することで、よりリスクが明文化されることがわかった！



⑥ 「KYT」研修の感想

みんなで意見を出し合うことで、自分では見落としている部分を見つけられた。

危険因子は沢山あり、「絶対に大丈夫」ということはないのだと改めて感じました。

リスクについてあまりに対策で固めると、入居者の生活環境をやんわり拘束しているように思える場面が仕事をしていて感じることもある。両立は難しい。



5. 危険箇所記入シートの活用

2回目のアンケートと同時に危険箇所記入シートを配布し、個々で取り組んでももらいました。

説明		名前	
「KYT」を用いての危険箇所の書き方は「〇〇（危険箇所）が□□（現状）すると××（リスク）になる」や「〇〇が□□になって××になってしまう」という『状況』『行動』『環境』などの『危険要因』と結果の『現象』をセットで考えます。またその『危険要因』と『現象』の『具体策』を考え言語化することが大切になります。『今回は東西、真ん中ダイニング』の危険な箇所の記入をお願いします。（※今回のアンケートでは「予測されるリスク」までの記入をお願いします。「改善策」については記入できる部分だけで構いません）			
危険要因 （ものの名称や場所等）	現状	予測されるリスク （誰にとって）	改善策

①場所や椅子など危険要因となっているものを取り上げる

②危険要因がどのような状態になっているのか現状のまま書く

③誰にとって、どのようなリスクが起こりうるのか予測してみる

④どうやったらリスク回避できるのか、手段や方法を考える



《実際に書いてもらった危険箇所記入シートの例》

- ①**危険要因**：スタッフ用の椅子
- ②**現状**：使用後もだしたまま
- ③**リスク**：つまずいてこける
- ④**改善策**：使用後や、席から離れる際は片づける



5. 危険箇所記入シートの活用

①勉強会の資料 (ミニカンファレンス)

- 個人で考えた次のステップとしてグループワークを行う時の題材として一部、使用した。

②危険予測マップの作成

- 多く出た意見をピックアップし、現場で活用できるマップを作成した。



①勉強会の様子（ミニカンファレンス）



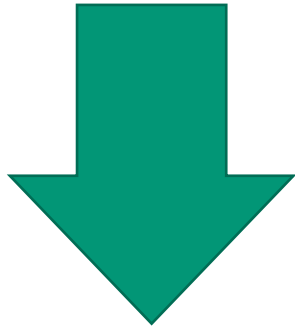
回収したもので
改善策が未回答であった事例を題
材にし、勉強会を開催しました。

個人で考えた次のステップとして
グループワークを通して
みんなで考え、共有し対策を
考えました。



②危険予測マップ作成

16人のスタッフから39事例回収



その中でも多くのスタッフから挙げられた、**5事例**に絞りマップ化に適用

『スタッフ用の椅子の保管所』 『入居者の椅子の数』

『清掃』 『食席に関して』 『車椅子の置き場所』

について分かりやすくマップ化しました！

完成したマップ

3階ステーション危険予測マップ

GOOD 😊

GOOD 😊

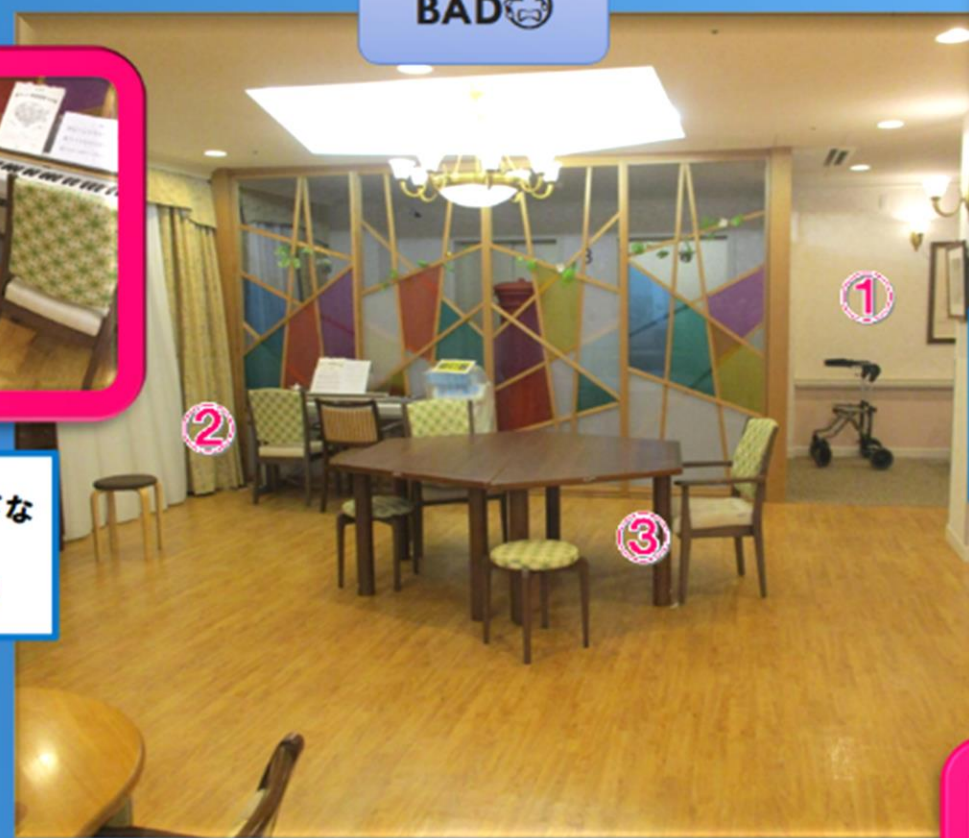
BAD 😞



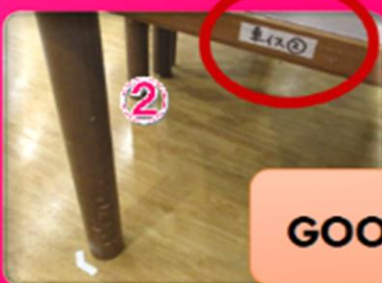
③ スタッフの椅子は机の下などに
入り込んでいませんか？



① 車椅子、歩行器は枠の内側で、
必要な台数だけになっていますか？



目印の場所に椅子を
戻しましょう！



GOOD 😊

② ご入居者の椅子は定位置に
直されていますか？



BAD 😞



確認日

/

掃除をして、お疲れ様でした！！

GOOD 😊



④ スタッフの椅子は、ご入居者から死角になる場所へ片付けられていますか？

GOOD 😊

目印にテーブルを合わせましょう！



⑤ ご入居者、スタッフが通れるスペースをしっかりと確保できていますか？



6. 考察

① スタッフの危険予測に対する意識の変化について

☆意識はもとからしているスタッフが多かったが、
「**再認識**」「**経験からの思い込み**」に気が付けたため
意識の変化がみられ、良い結果となった！

☆一つの事象について、グループワークをすることで
新しい視点でも見る事ができるようになった！



②マップ作成での気づき

危険箇所記入
シートを集め
て分かった
事！

事故が起こっていないだけで、危険箇所は**多数存在している**ことが分かった！



マップ作成時
に分かった
事！

ビフォーアフターを写真を用いて説明することで**可視化**でき、さらに情報の共有だけでなく、**新たな危険場所の発見につながる！**



今後の課題！

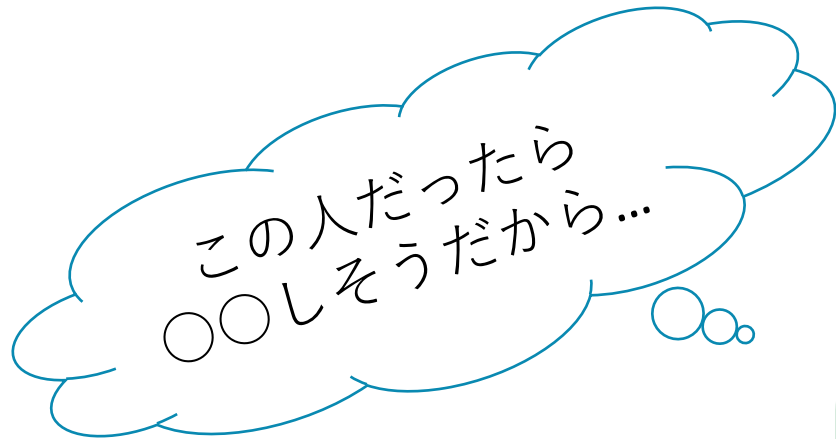
実践してどうだったか...の研究が今回はできなかったなので、**マップが有効であるか**はこれからの運用次第。



③KYTが定着していくためには

スタッフそれぞれが、危険予測をし、
カンファレンスを重ねていく事で

業務の一環として習慣化する！定着に繋がる！



「○○○かもしれないので、
△△に対策しましょう！」

1人1人に対して
合った対策を
言語化することが重要



6.さいごに

「**KYT**」の考え方の導入はできたが、継続して、臨機応変に活用したい！



1. マップを活用しフロア目標として「**KYT**」を意識付けする！
2. 日々変化する入居者の状態に合わせて意識もマップも更新していく！



ご清聴ありがとうございました。

